

# 中国・東アジア 02

## 5 唐末五代と宋

### ①唐末五代の内乱

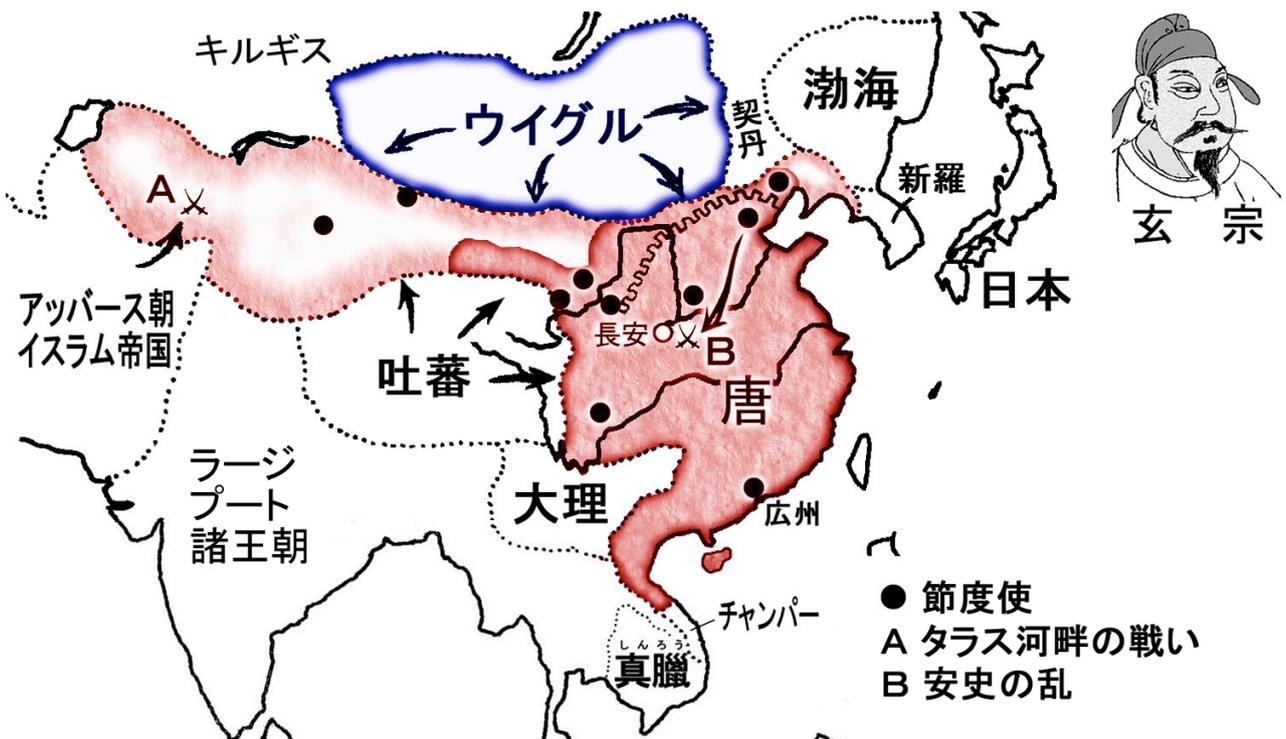
玄宗は、**開元かいげんの治ち**と呼ばれる唐の最後の繁栄をもたらした。しかしこの間、均田制の崩壊が進み、渤海やウイグルが離反したため募兵制を採用したことは説明したね。

玄宗の不幸は、長く生き過ぎたことだ。老いた玄宗は次第に政治に興味を失っていく。60歳を過ぎて出会ったのが、息子の後宮にいた28歳の楊貴妃だ。玄宗は楊貴妃を自分の後宮に入れ、溺愛した。楊貴妃に子はなかったが、楊一族が外戚として高官を独占。楊貴妃のまたいとこの楊国忠は、宰相の座についた。

3つの節度使を兼ねて10数万の兵を抱える安祿山と、外戚として権力独占しようとする楊国忠との対立が激化し、安祿山が反乱を起こした。**安史の乱(755-)**のはじまりだ。反乱軍は長安を攻略して略奪。安祿山は皇帝と称した。楊国忠と楊貴妃は逃げる途中で兵士に殺され、玄宗は失意の中で退位。息子の肅宗は、**ウイグルの援軍**を借りて長安を奪回。安祿山は息子に殺され、部下の史思明父子は洛陽で抵抗を続けたが、やはりウイグル軍に撃破された。

#### 杜甫と安史の乱

唐を代表する詩人は李白と杜甫。「詩仙」李白が、大酒を飲みながら老荘思想をうたったのに対し、「詩聖」杜甫は、下級官僚の仕事の続けながら、社会問題をうたった。「兵車行」で徴兵される兵士の運命を嘆き、「春望」で安史の乱による長安陥落を描いた。杜甫自身も反乱軍に捕まっている。「**国破れて山河あり、城春にして草木深し**」という詩は、のちに日本の松尾芭蕉の俳句「夏草や兵(つわもの)どもが夢のあと」に影響を与えた。



## ◎ウイグルって何ですか？



ウイグル人貴族とウイグル文字

突厥と同じトルコ系の遊牧民だ。**ソグド人官僚**を重用し、ソグド文字を縦書きにしたウイグル文字を使用した。可汗(王)は**マニ教に改宗**している。安史の乱鎮圧で勢いづいたウイグルは、唐に対して毎年の贈り物と皇妃の降嫁を要求した。吐蕃も、安史の乱直後に長安を占領している。

あいつぐ異民族の侵攻を防ぐため節度使を置く。**節度使が地方の徴税権を握って自立し、地方政府(藩鎮)を組織する**。長安陥落で中央政府の門閥貴族はすっかり没落した。彼らはこれまで官人永業田という名目で広大な私有地(荘園)を所有してきたが、節度使は荘園からも容赦なく税を取り立てた。節度使は武官(軍人)だから、読み書き計算が苦手だ。徴税事務を行うには、科挙を受験するような知識人が必要だ。そこで**形勢戸(新興地主)が官僚として藩鎮に雇われ、貴族に代わって台頭していく**。

唐は**兩税法を実施(780)**したが、地方の徴税権を節度使に握られているので、税収は増えない。宮廷では宦官が権力を握り、後漢の末期みたいになってくる。宦官の発案で**塩の専売制**が実施され、塩税で財政再建を図ろうとする。ところが限度というものを知らないのが宦官で、塩税を3000%まで引き上げた。千円の塩に、税が3万円という意味だ。肉の保存に塩は必要だが、こんな塩を誰が買うだろうか。

## ◎ばかみたい…

ここに王仙芝や黄巢など**塩の密売人**が登場する。武装商人団でマフィアみたいな連中だが、政府より安く塩を売るので民衆はこっちから買う。政府が取り締まると、反乱をおこす。民衆はマフィアの側を支持する。**黄巢の乱(875-)**はこうして始まった。官僚を目指して科挙に失敗した黄巢は、唐を恨んで密売人になった。インテリやくざだ。塩の専売廃止を叫んで挙兵すると、たちまち流民が集まり大反乱になった。大都市の略奪を繰り返し、広州ではアラブ商人を虐殺している。日本は遣唐使の派遣を中止した(894)。

## ◎白紙に戻そう遣唐使！…菅原道真、中止して正解だね。

唐の政府は密売人同士の対立をあおり、黄巢の部下だった**朱全忠**を寝返らせた。見返りは、**開封の節度使**の地位だ。開封は大運河と黄河の連結地点に生まれた大商業都市。ここの徴税権を握った朱全忠は考えた。「これも天命であろう」

907年、唐の皇帝を呼び出して殺害した朱全忠は、門閥貴族、宦官を虐殺し、開封で即位して**後梁**を建てた。10年後に後梁を倒した別の節度使は唐の復活と称して**後唐**を建てた。そのあとも**後晋・後漢・後周**と10年ごとにクーデタで王朝が交代した(**五代**)。地方の節度使は完全に独立した(**十国**)。あわせて**五代十国**という。

唐は軍事費の増大で財政破綻し、反乱を招いて三度死んだ。

- ①安史の乱で長安周辺だけを治める地方政権に転落し、
- ②黄巢の乱で完全に統治能力を失い、

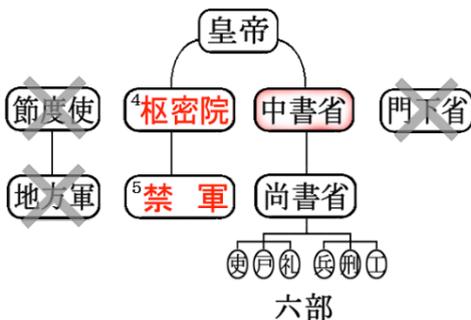
③朱全忠の反乱で滅亡した。

## ②宋の統一

五代の内乱を統一したのが**宋**だ。前半を**北宋**、後半を**南宋**という。建国者の**趙匡胤**はバリバリの軍人で、五代最後の後周の親衛隊長だった。例によってクーデタで帝位を奪ったわけだ。しかし趙匡胤が偉かったのは、軍人皇帝でありながら武断政治を終わらせ、科挙官僚が皇帝を支える**文治主義**へと大転換したことだ。

具体的にいうと、武官(軍人)が握っていた軍の指揮権を**樞密院**に移し、文官が皇帝直属の軍隊(禁軍)を指揮する体制とした。地方の節度使も徐々に廃止していったので、これ以後、クーデタによる政権交代がほとんど不可能になった。それまで外戚や軍司令官が易姓革命と称してクーデタを繰り返したが、宋以降はこういうことがほとんど不可能になった。

唐の三省六部のうち、皇帝権力を制限していたのが門下省だったが、唐末五代の内乱で貴族階級が全滅してしまったため**門下省は廃止**され、中書省に権力が集中した。**中書省と樞密院が皇帝独裁を支えた**わけだ。ところで、官僚と常備軍を通じて絶対的な権力を握ったフランス=ブルボン家みたいな体制を、ヨーロッパ史では何というかな？



◎絶対的な…って、絶対主義のことですか？

そうだね。だから、中国史では貴族が皇帝権力を制限していた唐までが中世で、皇帝独裁が確立した宋から近代絶対主義だ、という考えもあるんだ。でも、ヨーロッパの

絶対主義はだいたい 200 年くらい続いて市民革命で倒れたんだが、中国版の絶対主義は宋、元、明、清まで何と 1000 年も続いたんだ。どうして市民革命が起こらなかったのか。中国にもブルジョワジー(富裕市民)は存在した。大商人や形勢戸だ。彼らはなぜ皇帝独裁に不満を持たなかったのか？

◎儒学のせいですか？

うん。それもあがるが、もっと大きな理由がある。科挙。身分にかかわらず、がんばって科挙に合格すれば、官吏に採用される。宰相にだってなれる可能性はある。革命起こす暇があったら受験勉強だ、となる。

◎唐の科挙って、貴族に有利でしたよね。

そう、正確に言えば、科挙の合格者に採用面接(吏部試)を課すとき、家柄が重視されたんだよね。でも、貴族はもういなくなったんだ。だから宋では吏部試をやめて、代わりに殿試を始めた。大事なところなので、くわしく説明しよう。図を見てほしい。

唐代まで		宋代から	
①	州試…各州で実施。学科。	①	州試(唐代と同じ)
②	省試…尚書省礼部で実施。学科。	②	省試(唐代と同じ)

③ <b>吏部試</b> …吏部で実施。 貴族が行う <b>面接</b> 。	③ <b>殿試</b> …宮殿で実施。 皇帝臨席の <b>学科</b> 。
---	--

唐代までは吏部の面接で採用が決まったので、貴族出身の受験生を優遇した。試弟関係が生まれ、貴族の派閥を形成した。化した。

宋の殿試は、皇帝が合否を決定する。派皇帝の派閥だ。試験科目は政策提言(策文(意見書))という形で、一日がかりで1000実際の採点は礼部の官僚が行う。合格発同じで、名前が掲示される。成績優秀者3名は、特別に呼びだされて表彰される。だから合格者はみな感激する。

「皇帝陛下が、私の意見書を評価してくださった！」  
だから官僚たちは皇帝に忠誠を誓い、裏切ることはない。



殿試…答案を受け取る皇帝

た。試験官は貴族だった。試験官と受験生の間に子唐末には派閥抗争が激

閥は1つしかできない。論)だ。皇帝への上奏字以内で書きあげる。表はいまの大学入試と

### ◎なるほど…でも落とされたら、逆に皇帝を恨みますよね。

そうだね。唐末の黄巢みたいに、科挙に落ちたことを逆恨みされちゃ困るからね。だから、殿試では落とさないんだ。2次試験の省試の段階で、全員採用が決まっている。実は殿試というのは、序列を決めるだけだったんだ。

宋によって完成された科挙制度は、元のとときに中止されるが明・清へと受け継がれ、皇帝独裁を支えた。

## スキルアップ

### 中国史の時代区分

西欧史の時代区分は、

- ①ギリシア・ローマ時代を古代
- ②民族大移動から百年戦争までの封建社会を中世
- ③絶対主義の成立以降の集権国家、国民国家を近代

と3つに分けるのが一般的だ。ローマ帝国崩壊後の混乱の中で封建諸侯(貴族)が割拠し、荘園制が広まった時代を中世という。

日本史では、

- ①平安中期までの律令国家を古代
- ②平安末期から鎌倉・室町までの封建社会を中世
- ③信長・秀吉・家康以後のやや集権的な封建社会を近世
- ④明治維新以後の集権的な国民国家体制を近代

とする4分法が使われている。

中国史の場合、

- ①秦漢までを古代
  - ②貴族が台頭した魏晋南北朝からを中世
- として、近代はどこからなのか。

唐宋変革期を重視し、唐までを中世、皇帝独裁が確立した宋以後を近代と考える立場(京大派)と、佃戸制を農奴制と考え、清朝までを中世、辛亥革命以後を近代と考える立場(東大派)がある。

もともと西欧の時代区分をアジアに応用するのが無理なのだが、西欧史と日本史の類似性、中国史の異質性が表れている。

## 6 征服王朝の時代

### ① 遼(契丹)と北宋

**契丹人**は、遼東半島の付け根、遼河流域の草原と森の境界地帯で狩りと遊牧で生活する**モンゴル系**の半獵半牧民だ。**耶律阿保機**という英雄が現れ、ウイグルが西走したあとのモンゴル高原を再統一し、東方の森の民、渤海を併合した。中国風に「遼」という国名も使った。阿保機は漢字をもとにして**契丹文字**という独自の文字を定めたが、ほとんど解読されていない。

中国では藩鎮の抗争(**五代十国**)が続いていた。第2王朝の**後唐**は遼に対抗して長城に大軍をおいたが、司令官の石敬瑭が遼に寝返り、遼の援軍を得て第3王朝の**後晋**を建てた。その見返りに、**燕雲十六州**を契丹に割譲した。後晋はもう完全に、遼の傀儡政権だね。

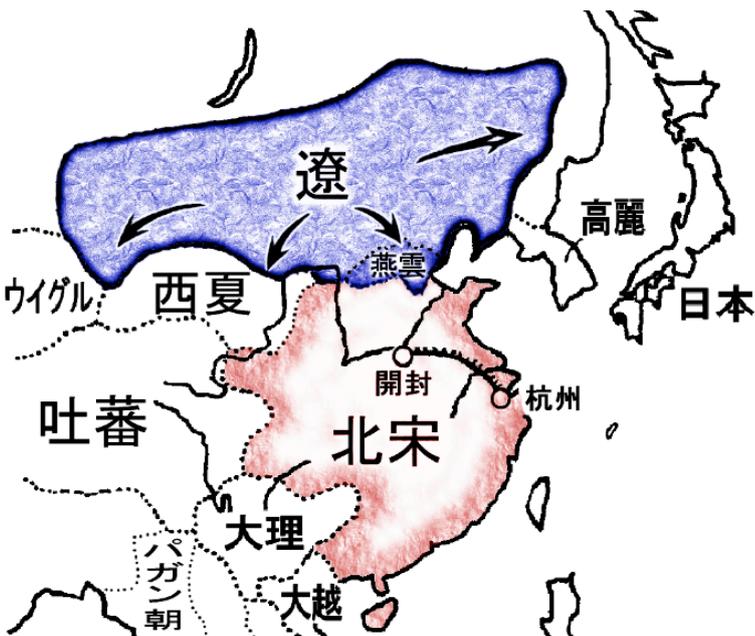
#### 📌 燕雲十六州

燕州は北京、燕州は北魏の都だった平城(現在の大同)。いずれも長城のすぐ南にある軍事拠点だ。燕州・雲州間の距離は、東京・名古屋間に等しい。歴代王朝は北方遊牧民の侵入を防ぐため、この地域を要塞化した。周囲には草原が広がり放牧もできるし、燕州は大運河の北端なのでコメも入ってくる。大軍をおいても飢えることはない。契丹がこの地を併合したことは、中華帝国が北方民族に対する防壁を失ったことを意味する。

北宋は燕雲十六州の奪回に失敗し、逆に遼に攻め込まれた。都・開封のすぐ北の**澶淵**で、和平交渉が行われた。遼は撤退の条件として経済援助を要求した。宋は答えた。

「よろしい。これから毎年、**銀と絹**の贈り物(**歳幣**)を契丹に与えよう。ただし条件がある。宋の皇帝を兄、遼の皇帝を弟とし、兄から弟への贈り物という形にしてほしい。そうしないと大宋帝国のメンツが立たぬ」

契丹はこれを受け入れ、話がまとまった。これが**澶淵の盟(1004)**だ。



チベットでは、吐蕃王国と対立した**タンゲート族**(羌族)が唐の領内に移住し族長が節度使に任じられていた。宋の節度使廃止に反発した族長**李元昊**が独立して**西夏**を建国し、オアシスの道を支配して強大化した。西夏の侵入に悩まされた宋は、和平交渉に応じた。

「毎年、銀・絹・茶の歳幣を贈るが、条件がある。西夏は小国なので宋の臣下になってくれ」——これを**慶暦の和約(1044)**という。戦争を極力避け、カネで平和を買う、というのが、宋の外交の基本だ。

## ◎ どうして戦わないんですか？

戦争が続いて、唐の末期のように軍人が台頭すると考えたからだ。これも**文治主義**だね。カネの切れ目が平和の切れ目、ってことになるから、毎年、毎年、永久に経済援助を続けなければならない。歳幣の支払いと、官僚・兵士(傭兵)への給与支払いで、宋は財政難に陥った。そのしわ寄せは、増税となって人民にのしかかった。「過去の戦争の反省」から、周辺諸国に経済援助をばらまき続け、財政赤字に苦しむどこかの国とそっくりだね。

唐末以来の**両税法**によって資産に課税されるから、自作農は税を逃れるには土地を手放すしかない。一方、新興地主(**形勢戸**)は年利 200%という高利貸しを営んでぼろ儲けした(10 万借りたら1年後の利子が20万、元本と合わせて30万返すという意味)。返せない農民は担保として土地を没収され、小作人(**佃戸**)に転落する。資産がないので両税は課税されず、形勢戸は官僚としてさまざまな特権を持つので、政府の税収はさらに減っていく。



王安石

地方長官を長く務めた王安石は、19歳の神宗皇帝に農民の窮乏を報告し、**自作農再建による財政再建**を訴えて宰相に抜擢された。ここから、**王安石の新法**と呼ばれる財政改革が始まった。

王安石の新法	
<b>青苗法</b> <b>市易法</b>	青苗法は農民、市易法は商工業者に、政府が <b>低利融資</b> を行う。年利 20%。
<b>保甲法</b> <b>保馬法</b>	<b>農民を徴兵</b> して農閑期に軍事訓練し、軍馬を農民に貸与して農作業に使わせる。募兵制に代わる兵制。
<b>募役法</b>	<b>労役(強制労働)の銭納化</b> を認める一方、公共事業には労働者を雇って賃金を支払う。
<b>均輸法</b>	物価調整法。漢の武帝と同じ。

## ◎ これで財政難も解決か！

いや、駄目だった…。王安石の新法は形勢戸の利益を損なうものだったから、猛烈な反対運動が起こった。たとえば青苗法は、高利貸の営業妨害になるわけだ。王安石ら**改革派官僚の新法党**と、形勢戸代表の**司馬光**ら**旧守派官僚の旧法党**が激しい権力闘争を続けたため、新法は中途半端な結果に終わった。旧法党が大きな力を持ったのは、形勢戸が科挙に有利だったからだ。

### 📖 王安石と司馬光

王安石と対立して辞任した司馬光が完成したのが『**資治通鑑**』。戦国時代から五代までの歴史を年代順に編集した**編年体の歴史書**だ。司馬遷の『史記』(紀伝体)と司馬光の『資治通鑑』(編年体)はよく比較される。王安石を登用した神宗が急死すると、司馬光が宰相として政権に復帰し、新法を全廃した。歴史家としては一流でも、政治家としては問題だらけだ。

## ◎ えっ、科挙って学力試験だから、家柄とか関係ないはずじゃ…

科挙は3年に1回、1回コケれば3浪、2回で6浪、3回で9浪という恐ろしい世界だ。受験生には白髪の老人も少なくなかった。この人たちはそれまでの人生、ずっと受験勉強をしているわけだ。その間、どうやって収入を得ていたのか？ 佃戸に働かせていたのだ。

「今日も暇だなあ…受験勉強でもするか…」

つまり、佃戸を雇えるような形勢戸でなければ、科挙に合格するのは難しかった、ということだ。自作農が朝から夕方まで肉体労働をやって、そのあと受験勉強ができるだろうか？



徽宗「桃鳩図」

さらに科挙合格者に対するごほうびとして、一族は**官戸**とよばれ、**労役が免除された**。この人たちが旧法党に加わり、国益よりも自分たちの既得権益を守るために動いたわけだ。

結局、宋は財政再建に失敗し、官僚は派閥抗争に明け暮れ、皇帝は政治に興味を失って趣味に走った。**徽宗**皇帝は『桃鳩図』を描いた画家として有名だが、政治家としては無能だった。北方で台頭した**金(女真)**への対応を誤り、国を滅ぼすことになる。

## ②金(女真)と南宋



モンゴル高原の東、大興安嶺という山脈を越えると、のちに満州と呼ばれる寒冷な森林地帯が広がっている。この森で古くから狩猟生活をしてきたのが**ツングース系**民族だ。漢代から唐代にかけては**高句麗**、唐末五代には**渤海**という強力な国を建てたが、渤海は契丹に滅ぼされ、毛皮などを税として取り立てた。

これに反発して立ち上がったのが、**女真の族長・完顔阿骨打**だ。国号の**金**は、砂金を産する黄金の国、という意味だ。阿骨打は漢字をもとに女真文字を定め、兵士1000名で猛安、100名で謀克という軍制(**猛安・謀克**)を組織した。

遼を倒す絶好のチャンスと考えた宋は、金と同盟を結んだ。

「阿骨打よ。遼を滅ぼし、燕雲を宋に返せ。そうしたら歳幣を与えよう」

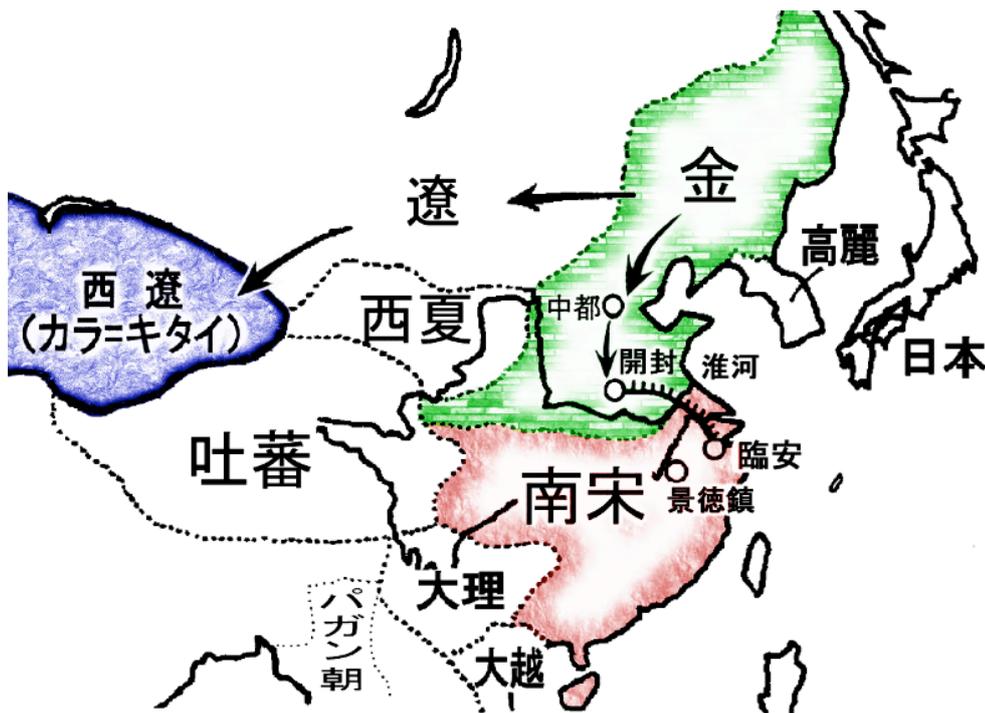
夷をもって夷を制す——蛮族を使って蛮族を倒す、という中華帝国の伝統芸だ。金の攻撃を受けた遼は、王族の耶律大石に率いられてタリム盆地の方面へ西走した。これ以後を**西遼(カラ=キタイ)**と呼ぶ。

自分の手を汚さずに長城を含む燕雲十六州を奪回した宋は強気になり、金に約束した歳幣を払わず、西遼と同盟して金に対抗した。

### ◎最低…

阿骨打は激怒し、宋を攻撃した。金軍は長城を突破して都の開封を占領した。徽宗皇帝は、息子の**欽宗**に譲位して責任を免れようとしたが金は許さず、徽宗・欽宗父子と皇族・官僚数千人が拉致され、北方に連行された。この事件を**靖康の変(1126-27)**という。

宋の皇族でただ一人、難を逃れた**高宗**(欽宗の弟)は、大運河が海に通じる**臨安**に亡命政府を建てた。これ以後を**南宋**という。金軍は後を追い、南宋政府は分裂した。主戦派の軍人・**岳飛**は、正規軍の敗北後も義勇兵を率いて抵抗を続けた。和平派の宰相・**秦檜**は抵抗の無駄を皇帝に訴え、岳飛を捕えて毒殺し、軍部を黙らせて金との和平交渉を開始した。国土の半分を失っても文治主義をやっているわけだ。



金の要求は過酷だった。

「**淮河**以北を金に割譲せよ」

「歳幣を支払え。ただし、**金の皇帝が主君、南宋皇帝が臣下だ**」

秦檜はこれを認め、**紹興の和議(1122)**が成立した。秦檜はのちに、裏切り者、売国奴(中国語で漢奸)と罵倒されることになる。一方、殺された岳飛は英雄となり、臨安(杭州)には岳飛廟(岳飛を祭る神殿)が建てられた。参道には秦檜夫妻の像が罪人の姿で置かれ、参拝客は唾を吐く。

### 📖 南宋が生んだ朱子学

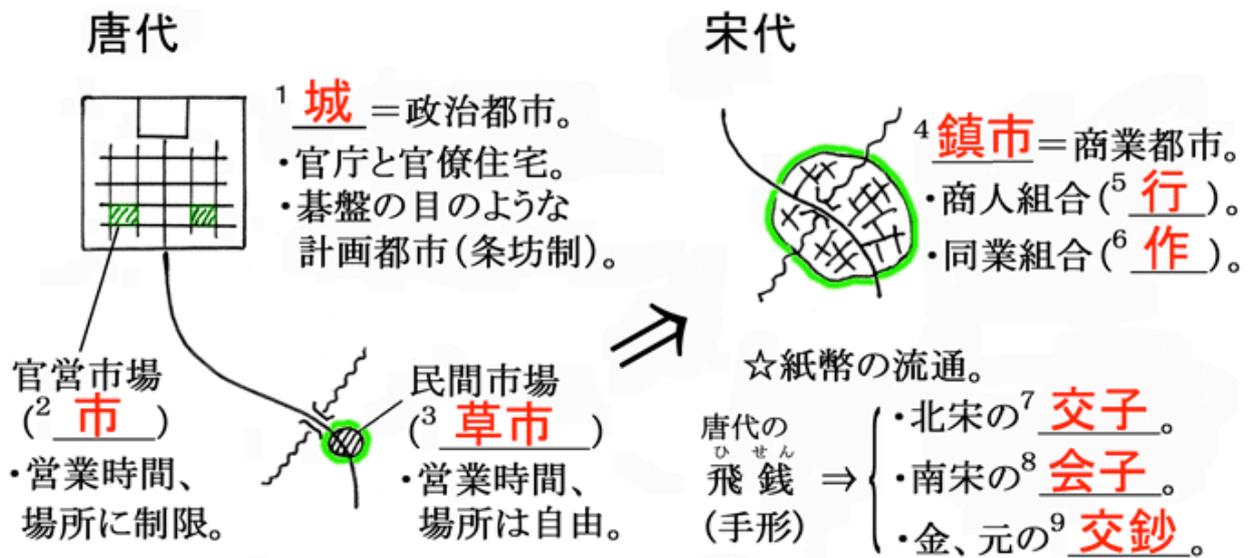
唐代に科挙のための暗記学問となってしまう儒学を建てなおしたのが、北宋の**周敦頤**だ。仏教・道教の宇宙観を取り入れ、理(法則)・気(物質)によって宇宙の創生を説明した(**理気二元論**)。南宋の**朱熹**は、人間にこれを応用し、人間に理が宿ったのが性(理性)だとし(**性即理**)、気である肉体から発する情(感情)の価値を否定した。理性をもつ人間が、感情だけで動く動物(禽獣)を支配すること、理性を極めた聖人君子(士大夫)が庶民(農工商)を支配すること(士農工商)、文明(中華)が野蛮(夷狄)を支配すること(**華夷の別**)は、宇宙の法則にかなう秩序であり、この序列を絶対に崩してはならないと説いた(**大義名分論**)。現実世界では「夷狄」の金に臣従していた南宋の人々が、観念の世界で逆転勝利しようとした試みが朱子学だ。南宋はモンゴルに征服されるが、モンゴル支配を脱した明朝で朱子学は官学とされ、朝鮮やヴェトナムにも思想に大きな影響を与えた。

中国史上、最も弱体だった宋王朝だが、実は経済的には急成長した。唐代には土地国有が原則で、商業活動も国家に規制されていた。安史の乱のとき杜甫が「国破れて山河あり、城春にして…」とうたったが、「城」とは日本人が連想するような「お城」ではなく、長安城のことだ。城壁に囲まれ、碁盤の目のように道路が走る計画都市(**条坊制**)を**城**といい、住民の大半は官吏と従者だった。商人は、城内の「市」と呼ばれる官営市場で日中だけ営業が許された。売れ残った商品は、城外の「**草市**」と呼ばれる民間市場で売りさばいた。

唐の衰退で条坊制は崩れ、経済活動も自由化された。草市が発達して商業都市の**鎮市**が生まれた。ヨーロッパの中世都市と似ていて、商人ギルドである**行**、職人の同業ギルドである**作**が相互扶助を行った。都市全体が商業地区で活気に満ち、夜間営業も行われた。宋の都・開封を描いた『**清明上河図**』をみると、当時の市民生活を知ることができる。

唐代の貨幣は銅銭だったが、取引が大規模になると銅銭では不便だ。何百枚もの銅銭を持ち歩くことはできない。商人は、銅銭の引換券(手形)である**飛銭**を発行し、支払いに使い始めた。政府がこれを発行すると、紙幣になる。**北宋の**交子**は世界最初の紙幣**であり、南宋の**会子**、金・元の**交鈔**がこれに続いた。

## 唐宋変革期の都市と商業



(解答) 1 城 2 市 3 草市 4 鎮市 5 行 6 作 7 交子 8 会子 9 交鈔



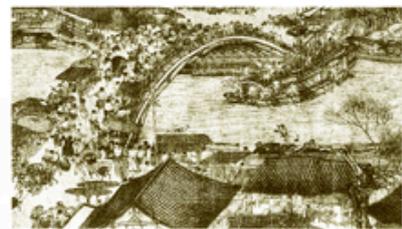
唐の開元通宝



北宋の交子



元の交鈔



「清明上河図」…開封の繁栄を描く。

南宋の領土は、温暖で豊かな江南であり、金が占領した華北とは別世界だ。北宋時代にヴェトナムのチャンパーから伝来した**占城稻**は生育が早く、年2回の収穫ができた。長江下流域の低湿地を堤防で囲んで干拓する**围田**の技術が広まり、水田が拡大した結果、「**江浙(蘇湖)熟すれば天下足る**」——江蘇・浙江(蘇州・湖州)でコメが実ると、全国でメシが食える——というほど長江下流域が豊かになった。庶民が茶を飲む習慣は宋代から広まり、**福建は茶の特産地**となった。**景德鎮**が**陶磁器の特産地**となったのもこの時代だ。

中国の米作地帯



江浙(蘇湖)…宋代の米作地帯。

- ・チャンパーから占城稻を導入。
- ・困田による長江デルタの干拓。
- ・福建の茶、景德鎮の陶磁器(宋磁)。

スキルアップ

中国の都



- ① 長安
- ② 洛陽
- ③ 開封
- ④ 臨安
- ⑤ 北京

- ..... オアシスの道
- 大運河
- ..... 海の道

中国の都

王朝ごとに名前が変わるので混乱するが、大きく分けて次の6カ所に都が置かれた。

古代の首都はオアシスの道と結ばれた①長安か②洛陽。

唐末にウイグルや吐蕃の侵攻でオアシスの道が衰えたため、海の道が発達した。五代・宋の都は大運河沿いの③開封、④臨安に置かれた。⑤北京は長城防衛の拠点だが、大運河でコメが供給される

で食料に困らない。北方民族が中国を支配するときは、かならず北京に拠点をおく。遼は北京を中心とする燕雲十六州を併合し、金・元も北京に都をおいた。

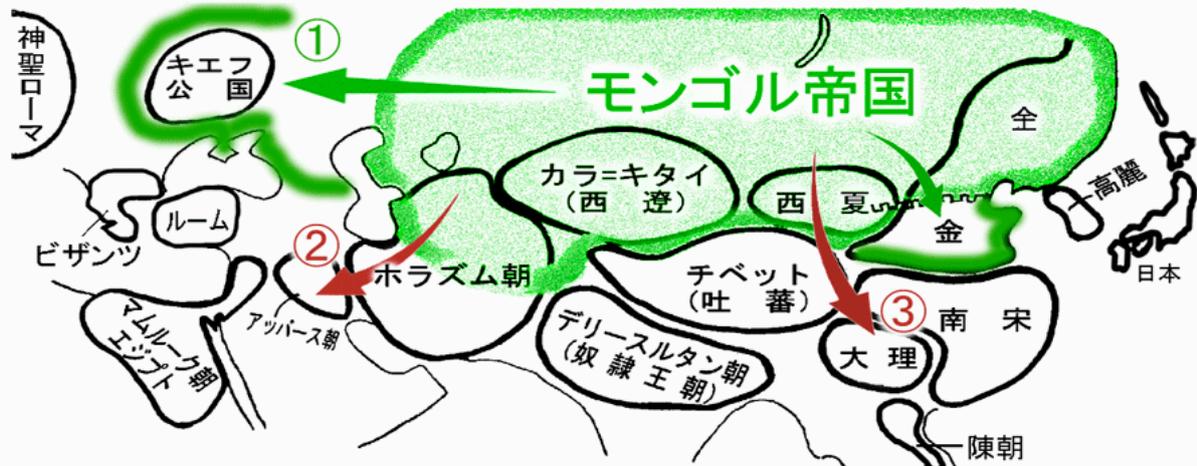
明は南京で建国したが北京を防衛拠点とし、北京軍司令官出身の永楽帝が北京に遷都した。清は長城を超えて北京に遷都し、中国を支配した。王朝ごとの名称は、以下の通り。

- ①長安…周の鎬京、秦の咸陽、前漢の長安、隋の大興、唐の長安。
- ②洛陽…東周の洛邑、後漢・魏・晋・北魏の洛陽。
- ⑤北京…遼の燕州、金の中都、元の大都、明・清の北京。

### ③モンゴル帝国

遼が西走したあとのモンゴル高原では、遊牧民同士の抗争が激化した。森の民である金は草原を直接支配せず、遊牧民同士を争わせる政策をとった。モンゴル族の部族長イエスゲイは、敵対部族に毒殺され、10歳の息子**テムジン**が後をついだ。30年に及ぶ戦いを経て、40歳を超えたテムジンは草原を統一、部族長会議(クリルタイ)で草原の君主(ハン)に選出され、**チンギス=ハン**と称した。強大な金に対抗するため、チンギスはまずオアシスの道を支配する**西夏・西遼・ホラズム朝**を**征服**し、金から長城以北の領土を奪った。裏切る者は同族でも容赦せず、忠誠を示す者は民族を問わず重用し、さまざまな民族の兵士を百人隊、千人隊に組織した(**千戸制**)。

#### モンゴルの征服① チンギス=ハンの征服地



■ チンギス □ オゴタイ ① バトゥ ② フラグ ③ フビライ

西夏攻略の最中に負傷したチンギスは、三男の**オゴタイ**を後継者に指名して死んだ。オゴタイは金を滅ぼして淮河以北の中国を併合し、モンゴル高原に最初の都**カラコルム**を建設した。都には征服地の諸民族を移住させたが、モンゴル人は都市生活を嫌い、遊牧を続けた。都を起点にして馬で一日の行程ごとに「駅」が設けられ、テントと食事、馬が用意された。この**駅伝システムをジャムチ(站赤)**という。ハンから通行証を発給された旅人は、ジャムチを無料で利用することができた。オアシスの道の北方に、「**草原の道**」が生まれたわけだ。

◎一つの超大国が世界を支配すれば平和になるのか…



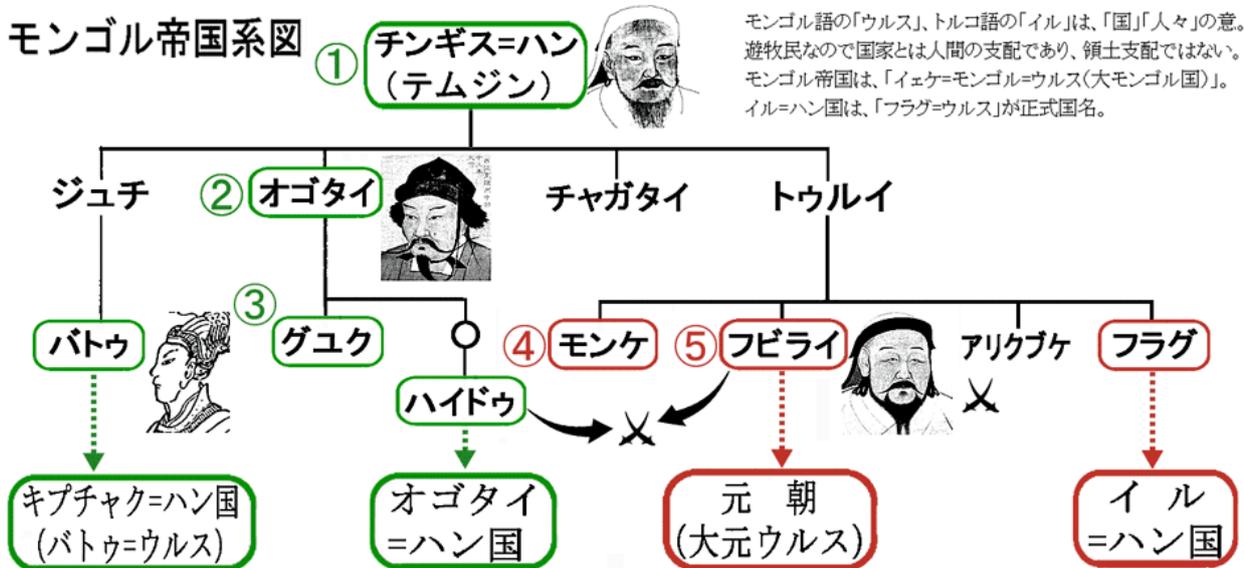
はいふ 牌符(モンゴル帝国の通行証)

モンゴルは征服の過程では問答無用の虐殺を行ったが、征服後はモンゴルに反抗する者がいなくなるので、むしろ治安は良くなった。これを「**モンゴルの平和(パックス=モンゴリカ)**」という。歴史上はじめて、ユーラシア大陸が初めて一つの国家に統合されたんだ。

## 🐉 チンギスの息子たち

実力主義の遊牧社会では、最も優れた息子が父の跡を継ぐ。チンギスには4人の息子がいた。長男ジュチは、母が敵の部族に拉致されていたときにできた子で、チンギスの子ではないという疑惑があった。ジュチとは「客人」を意味する。しかも、父チンギスより先に死んだ。次男チャガタイは気性が激しすぎ、末子トゥルイは若すぎた。三男のオゴタイが跡を継いだ。長男ジュチの息子バトゥの反抗を警戒した。バトゥのヨーロッパ遠征は、両者の対立を緩和する目的があった。

## モンゴル帝国系図



オゴタイはヨーロッパ遠征を甥の**バトゥ**に命じた。**バトゥの遠征軍は、南ロシアのキエフ公国を滅ぼし**、ハンガリーとポーランドを荒廃させ、神聖ローマ帝国に侵入してドイツ・ポーランド諸侯軍を全滅させた。これが、「死体の野原」を意味する**ワールシュタットの戦い(1241)**だ。連戦連勝のバトゥのもとに、カラコルムから使いが来た。

「オゴタイ=ハン様が、亡くなられました。お戻りください」

ドイツから撤退したバトゥはカラコルムに戻らず、南ロシアに自分の国を建てた。これをバトゥ=ウルス(ウルスは「国」といい、ヨーロッパ人は**キプチャク=ハン国**(キプチャク草原のハン国)と呼んだ。ロシアはこれ以後 200 年間、バトゥ家の支配下におかれた。このあと、西ヨーロッパの使いが続々とカラコルムにやってくる。

## ◎敵のモンゴルに、どうして使いを送るんですか？

西欧のカトリック諸国は、十字軍の真っ最中だった。何度やっても、イスラーム教徒に勝てない。もし世界最強のモンゴルと手を組めたら…ローマ教皇が命じた。

「悪魔の軍勢モンゴル、なぜ消えた？ カルピニ、様子を探ってこい」

エジプトとの戦いを続けていたフランス王ルイ9世が命じた。

「われら十字軍が西から攻め、モンゴル軍が東から攻めれば、イスラーム教徒を倒せる。ルブルック、モンゴルへ行け」

カラコルムに派遣された**教皇使節プラノ=カルピニ**は3代グユクと、**フランス王の使節ルブルック**は、4代モンケと面会。これ以後モンゴルはヨーロッパ遠征を中止し、イスラーム世界へ侵攻する。

モンケが命じた。

「弟フビライ、南宋を征服せよ。弟フラグ、イスラーム世界を征服せよ」

フラグの遠征軍は**バグダードを攻略(1258)**、アッバース朝のカリフを処刑した。次にマムルーク朝エジプトに侵攻したところで、兄モンケの死の報がもたらされた。フラグはカラコルムに戻らず、イスラーム世界(イラン・イラク)にフラグ=ウルス(**イル=ハン国**)を建てた。

### モンゴルの征服②



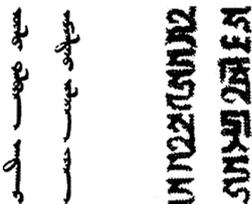
**き キプチャクハン国** **い イル=ハン国** **げ 元朝**

#### フビライ即位をめぐる争い

モンケ=ハンにはフビライ、フラグ、アrikブケの3人の弟がいた。フビライが南宋遠征、フラグがエジプト遠征で不在だったため、カラコルムにいた末子アrikブケがハン位を狙った。急ぎよ帰国したフビライが上都で5代ハンとして即位しアrikブケを倒した。その次にフビライのライバルとして立ち上がったのが、オゴタイ家のハイドウだ。

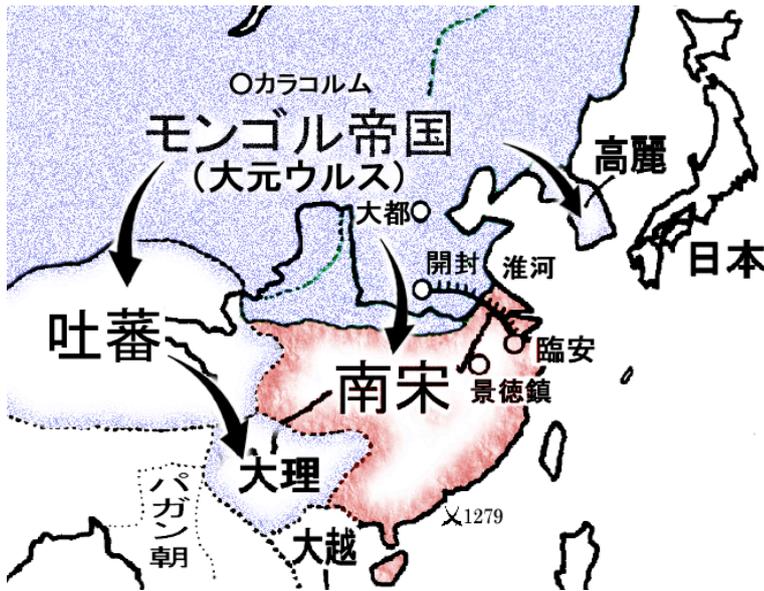
モンケの弟フビライが5代ハンになると、トゥルイ家によるハン位の独占を恐れたオゴタイ家のハイドウが内乱を起こした(**ハイドウの乱**)。バトゥ家やチャガタイ家もハイドウ側についたので、フビライの支配は東アジアにしか及ばなくなった。フビライはカラコルムを捨てて内モンゴルの**上都**、長城の南の**大都**に遷都し、**大元ウルス(元朝)**と国号を改めた。いっそのこと、中華皇帝になってやろうと決めたわけだ。

南宋包囲作戦の一環として、フビライはチベットを利用した。チベットの軍事占領は困難なので、**チベット仏教の指導者パスパ**を保護し、元朝の宗教担当大臣に迎えた。これ以後、**モンゴル人のチベット仏教改宗**が本格化した。また、ウイグル文字系のモンゴル文字と並んで、チベット文字を改良した**パスパ文字**が使われた。



モンゴル文字(左)、パスパ文字(右)

ハイドウと戦いつつ南宋攻めを続けるフビライは、南宋の将軍たちに投降を呼びかけ、応じた者は破格の待遇で召し抱えた。元軍が臨安に迫ると、南宋政府はまたまた主戦派と和平派に分裂。主戦派は幼い皇帝を擁して南シナ海へ逃げたが元軍に追いつめられ、幼帝は海中に身を投じ、**南宋は滅亡した(1279)**。



**日本遠征**は、南宋攻めの一環として始まった。海軍を持たない元は、高麗・日本を服属させ、その海軍を動員して東方海上から南宋を攻撃しようと考えた。高麗は元に屈したが、日本は服属を拒否した。フビライは元・高麗連合軍を派遣して北九州の博多を焼き払った(1274 文永の役)。再度、服属を要求する元の使者を、鎌倉幕府は斬った。

この間、南宋が先に滅んでしまったので、作戦を変更して南宋軍も日本遠征に参加させた。

南宋軍兵士を日本に入植させて、元に対する反乱の目を摘んでおこうという意図もあった。

元・南宋・高麗連合軍 10 数万が北九州に上陸したが、日本武士団の抵抗と台風によって壊滅した(1281 **弘安の役**)。フビライは第3次遠征も計画したが、ヴェトナムの反乱やジャワ遠征に忙殺されて実現しなかった。

#### ◎モンゴルが征服できなかったのは、エジプト、日本…

それからヴェトナム、ジャワだね。エジプトはマムルーク騎兵と互角の勝負になった。ヴェトナムは森林と水田に守られ、日本やジャワは海に守られて助かったわけだ。

#### 📖 フビライの日本遠征とマルコ=ポーロ

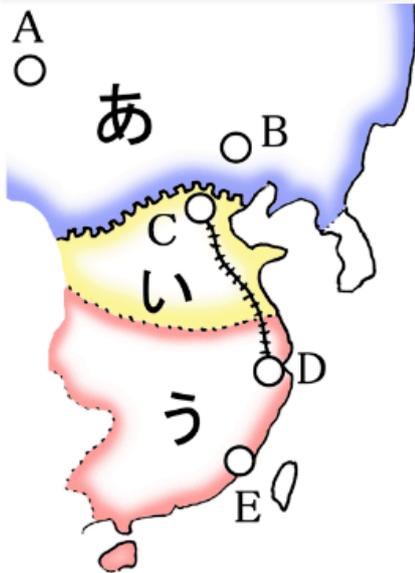
東方貿易に従事していたヴェネツィア商人ニコロ=ポーロは、フビライ充ての教皇の手紙を携え、シリアからイル=ハン国を経由して元朝に至った。同行した息子のマルコは数ヶ国語を操り、色目人官僚としてフビライに重用され、20 年以上仕えた。この間、ハイドゥの乱で陸路が危険になったため、マラッカ海峡、インド、イル=ハン国経由で帰国した。マルコの証言をまとめた『世界の記述』には、フビライが黄金の国ジパングの征服を企て、嵐により挫折した、とある。「日本国」の中国語読み「ジーベンゴ」がジパングとなり、ジャパン Japan と変化した。200 年後、『世界の記述』を手にしたジェノヴァ人**コロンブス**は、黄金の国を目指してアメリカ大陸に到達する。

元朝の領域は、北から3つの部分からなっている。長城以北の草原は、チンギスが征服した。この住民は、モンゴル人とオアシスの諸民族(**色目人**)だ。イスラーム教徒を中心とする色目人は、財務官や地方総督などの高級官僚として重用された。

オゴタイが金から奪った淮河以北の中国は、住民の多数が**漢人**となる。彼らは下級官僚として採用された。

フビライが南宋から奪った江南地方は、住民はすべて漢人であるが、南宋住民という意味で**南人**と呼ばれた。課税されるのみで、官僚への採用はなかった。南人は元朝の人口の 80% 以上を占めた。

フビライは、長城の北の上都を夏の都、長城の南の大都(北京)を冬の都として、毎年移動した。大都と臨安(南宋の旧都)をまっすぐ結ぶ新たな**大運河**を建設し、江南のコメを大都に吸い上げた。元も紙幣(**交鈔**)を発行したが、外征のたびに大量発行される交鈔は通貨としての信用を失い、インフレが進んだ。フビライの死後、江南では南人の暴動が多発し、元朝は急速に解体に向かう。



A **カラコルム**…オゴタイ～モンケの都。

B **上都**…フビライが即位。夏の都。  
(シヤンドウ)

C **大都**…フビライが遷都。冬の都。  
(ハンバリク)

D **臨安**…南宋の旧都。  
(キンザイ)

E **泉州**…最大の貿易港。福建省。  
(ザイトン)

元の大運河

あ チンギスが征服…モンゴル人。西域諸民族(<sup>1</sup>**色目人**)。  
⇒高級官僚(財務官・地方総督)に。

い オゴタイが征服…金の住民(<sup>2</sup>**漢人**)⇒下級官僚に。

う フビライが征服…南宋の住民(<sup>3</sup>**南人**)  
⇒冷遇され、<sup>4</sup>**科擧**も中止。(注)

(注) 4代・仁宗(フビライの孫)は漢人文化に理解があり、科擧を復活(1315)。しかし、色目人・漢人・南人ごとに合格者が定められ、南人の合格者はわずかだった。



フビライ=ハン

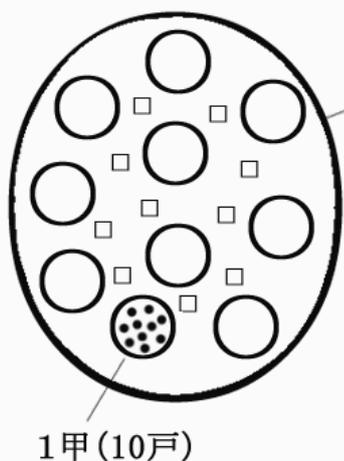
# 7 明・清

## 1 明

元末、飢饉と重税、インフレに苦しむ江南で、農民出身の**朱元璋**<sup>しゅげんしやう</sup>という若者がいた。一家は餓死したとも、疫病で死んだともいわれる。寺に預けられた朱元璋は、托鉢僧になって物乞いで生活した。20歳を過ぎたころに、**紅巾の乱**が発生した。**白蓮教の指導者・韓山童**が元朝打倒と宋朝復活を呼びかけ、朱元璋もこれに参加した。反乱軍の中で台頭した朱元璋は教団の主導権を握り、金陵(南京)で皇帝に即位した。国名を**明**、年号を「洪武」とし、一皇帝一年号の**一世一元の制**を定めた。これ以後、年号=皇帝のおくり名となる。洪武年間の皇帝は「洪武帝」となる(日本では、明治天皇が一世一元を採用した)。

明は全国を5個の軍管区に分け、**五軍都督府**<sup>ととく</sup>に統制させた。**兵士は100人で「所」、50所で「衛」という単位に分けた**。これが**衛所制**だ。兵士を出す家を軍戸、税を納める家を民戸と呼んではっきり分けた。民戸は**10戸で「甲」、10甲で「里」という単位に分け、納税の連帯責任を負わせた**。これが**里甲制**だ。

### 明の里甲制



- 1里(110戸)
- 里長戸…輪番制で里長を務める。
  - ・治安…里老人が巡回、六論を唱える。
  - ・徴税…魚鱗図冊、賦役黄冊を作成。
- りくゆ  
六論…①父母に孝順、②長上を尊敬、  
③郷里に和睦、④子孫を教訓、  
⑤生理に安んじ、⑥非為をなすな。



▲ 魚鱗図冊

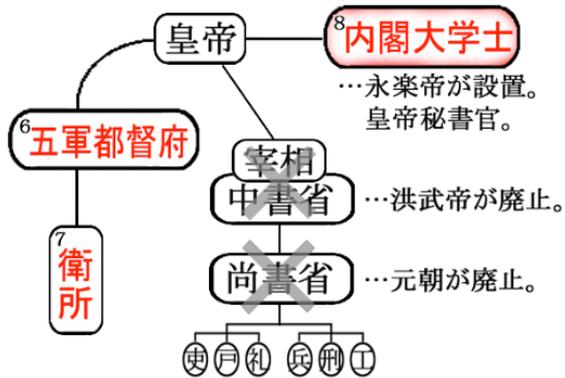
里長(村長)は**魚鱗図冊**<sup>ぎょりんずさつ</sup>(土地台帳)と**賦役黄冊**<sup>ふえきこうさつ</sup>(戸籍)を作成して徴税を請け負った。また、**里老人**が村内を巡回し、「**六論**」<sup>りくゆ</sup>という儒学道德の6カ条を唱和させた。農民出身の朱元璋だから、農民のずるさもよく知っていたわけだ。徹底的に監視した。

◎息がつまりそうです…

「何でも徹底的にやる」という朱元璋の性格は、中央政府の改革にも及んだ。宋が門下省を廃止していらい、中書省が最高機関となり、その長官である宰相が、皇帝に次ぐ権力を握った。王安石や秦檜が代表例だね。**朱元璋は、皇帝権力を脅かす存在として宰相と中書省を廃止し、六部を皇帝直属にした**。会社でいえば、中間管理職を廃止して社長が社員に直接命令するワンマン会社になったわけだ。社長の仕事のものすごい量になるので、社長秘書を置いて補佐させる。

この社長秘書にあたるのが**内閣大学士**だ。3代**永楽帝**が**設置した**。あくまでも皇帝秘書なので、六部に命令することはない。だから皇帝独裁は変わらない。

### 明…皇帝独裁の完成



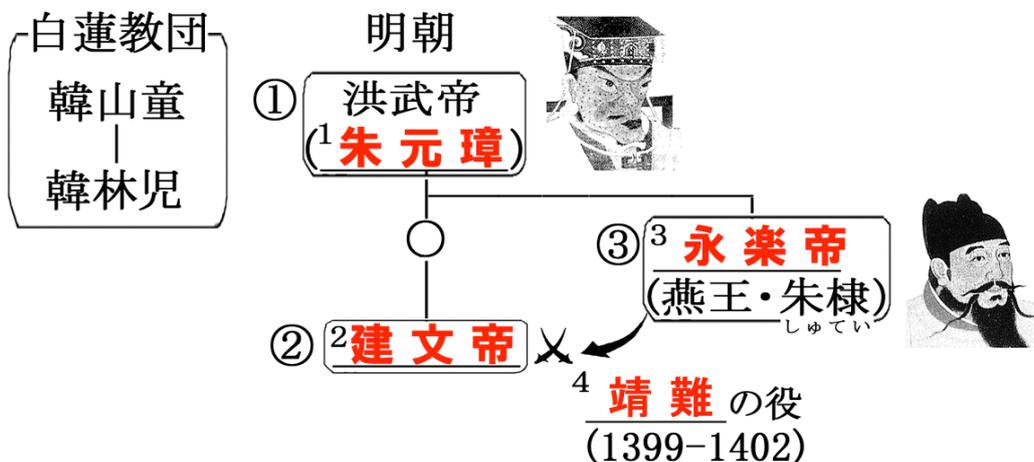
#### 👉 2人の農民皇帝

中国歴代王朝の建国者には軍人や外戚が多いが、農民出身者が2人いる。漢の劉邦と、明の朱元璋だ。朱元璋は劉邦を意識していたが、両者の性格は正反対だった。アバウトで何事も部下に任せる劉邦。部下を信用せず、何でも自分でやらないと気が済まない朱元璋。典型的なA型人間だった。朱元璋は、宰相の胡惟庸が日本と内通して謀反を企てたと疑い、胡惟庸を処刑し、宰相と中書省を廃止してしまった。このため中書省の仕事が皇帝の仕事になり、膨大な書類を処理するはめになった。朱元璋は毎朝4時起きしてすべての書類に目を通し、決裁した。

老いた朱元璋は後継者問題で悩まされた。モンゴル帝国のハン位継承法は覚えているね。

#### ◎一番すぐれた息子に跡を継がせる。

そう。朱元璋の息子たちの中で最も優れていたのが4男の燕王・朱棣しゅていだった。燕は北京のことで、北京防衛軍司令官として大軍を率いていた。モンゴル帝国なら間違いなく2代目だ。ところが儒学を重んじる漢人王朝では長男が跡を継ぐのが原則だ。ここでもめる。



朱元璋の長男は若くして病死し、孫の**建文帝**が14歳で2代皇帝となった。建文帝の側近たちは燕王の謀反を恐れ、燕王の軍隊を取り上げようとした。燕王は先手を打って挙兵し、南京を攻撃した。「君側の奸を除き、**帝室の難を靖んず**」、つまり皇帝に罪はないが、側近どもが腐っているから倒す、というのが燕王の言い分で、だから**靖難の役**または**靖難の変(1399-1402)**という。「役」は戦争、「変」は事件のことだ。

南京は徹底的に破壊され、建文帝は行方不明となり、南京政府の要人が多数、粛清(処刑)された。燕王が3代**永楽帝**となり、自分の本拠地である**北京に遷都**した。叔父と甥の権力争いは、モンゴル人なら普通のことだが、家族愛(仁)を重んじる儒学思想の中国では大問題となる。燕王がどう言い訳しようが、兄の子を倒して帝位を奪ったことは、これ以後の明王朝の正統性を揺るがすことになった。

### ◎正統性を揺るがすって、どういうことですか？

欧州の王室や日本の皇室の正統性は、血統にある。中華皇帝は、血統はあまり意味がない。朱元璋も農民の子だった。天命を受けた有徳者であれば、だれでも皇帝になれる。逆に徳を失った暴君は、革命で倒される。だから皇帝は自分が有徳者であることを、人民に示さなければならない。隋の煬帝が兄を殺して帝位を奪い、暴君と非難された。結局、軍の反乱で煬帝は殺され、隋は2代で滅んでしまった。隋の正統性には問題があったからだ。

皇帝が有徳者かどうか、天は喋ってくれない。だから世界各国から朝貢使節を招いて、「明の皇帝の徳を慕って参りました」と言わせればいい。では、どうすれば朝貢使節が来てくれるか。彼らの貢ぎ物に対して数倍のお返し(下賜品)を与えればよい。永楽帝は命じた。

「**鄭和**、南海諸国に遠征せよ。朝貢をうながせ」

### ◎あっ、これが鄭和の南海遠征か…！



鄭和

そう。だから「遠征」といっても侵略するわけじゃない。大型貨物船に高級絹織物や陶磁器を満載して、各国にばらまくのだ。「朝貢してくれたら、もっとたくさん分けてやるぞ」、と。鄭和の艦隊は、東南アジア・インド・東アフリカの国々まで訪問し、数十カ国の朝貢使節を乗せて、艦隊は帰国した。インドのカリカットや、遠くケニアのマリンディまで達している。**ヴァスコ=ダ=ガマのポルトガル艦隊がやってくる約**

**90年前**のことだ。中国版の大航海時代といえる。

#### 👉 鄭和って誰？

鄭和の一族は、元朝に仕えた色目人で、ムスリムだった。父は雲南の地方長官だったが、明軍の雲南占領の際に一族は虐殺された。13歳の鄭和は宦官にされて奴隷として売り飛ばされ、燕王に買われた。靖難の役で孤独な独裁者となった燕王(永楽帝)は、鄭和だけは信頼し、艦隊司令官の任務を与えた。南海遠征を技術的に支えたのは、実はムスリム商人たちだった。

日本では、モンゴルを撃退した鎌倉幕府が財政難で崩壊したあと、天皇親政の復活を求める後醍醐天皇と、武家政権の再建を図る足利家が対立し、内戦となった。資金不足に陥った足利家は、明に朝貢することで下賜品を得ようとした。3代**足利義満**は**建文帝、永楽帝に朝貢し、「日本**

**国王**として冊封された。北九州の博多を出港した朝貢使節は、東シナ海を横断して浙江省の寧波にんぽうに入港する。ここの市舶司で入国審査があり、**勘合**を提出する。勘合は「日字壺号」と割印した2枚の紙で、一方を市舶司が、他方を朝貢使節が持っている。入国許可がでると北京まで案内され、「日本国王の使者でございます」と土下座し、たっぷり下賜品をもらって帰る。この勘合貿易によって、足利家は急速に豊かになり、内戦に勝利して京都に金閣を建てた。

◎異民族が、頭下げれば儲かるようにしたんですね。

「**朝貢以外の貿易は認めない**」というのが、洪武帝以来の明の政府の立場だ。**外国人との勝手な貿易、中国人の海外渡航は厳罰に処せられた**。これを**海禁**という。「寸版すんぱんも下海げかいを許さず」——小さな板切れさえ海に浮かべてはならない、という意味だ。

**朝貢貿易は大量の下賜品を与えなければならないので、やればやるほど明朝は赤字になる**。財政危機に陥った明朝は、鄭和の南海遠征を中止した。日本に対しても勘合貿易の削減を求めた。

「足利、来てくれるのは嬉しいが、今後は10年に1度にしてくれ」

さて、朝貢貿易には民間の商人たちがついていく。明の安い絹が求める博多や堺の商人たちだ。「次の朝貢は10年後？ 待ってられないから密貿易をしちゃおう」、ということになる。中国商人も日本の安い銀が欲しい。浙江省や福建省のリアス式海岸で**密貿易**が始まる。

明の政府は海禁を徹底して密貿易を取り締まる。密貿易商人は武装して政府軍に抵抗し、日本商人に助けを求める。日本は秀吉の刀狩りの前なので、商人が刀を差している。日本のサムライに憧れて、中国商人が日本刀を持ったり、和服を着たりする。この日明混成の**武装商人団を倭寇**という。『明史』という歴史書には、「倭寇といっても、本当の日本人は10～20%しかいない」、と書いてある。

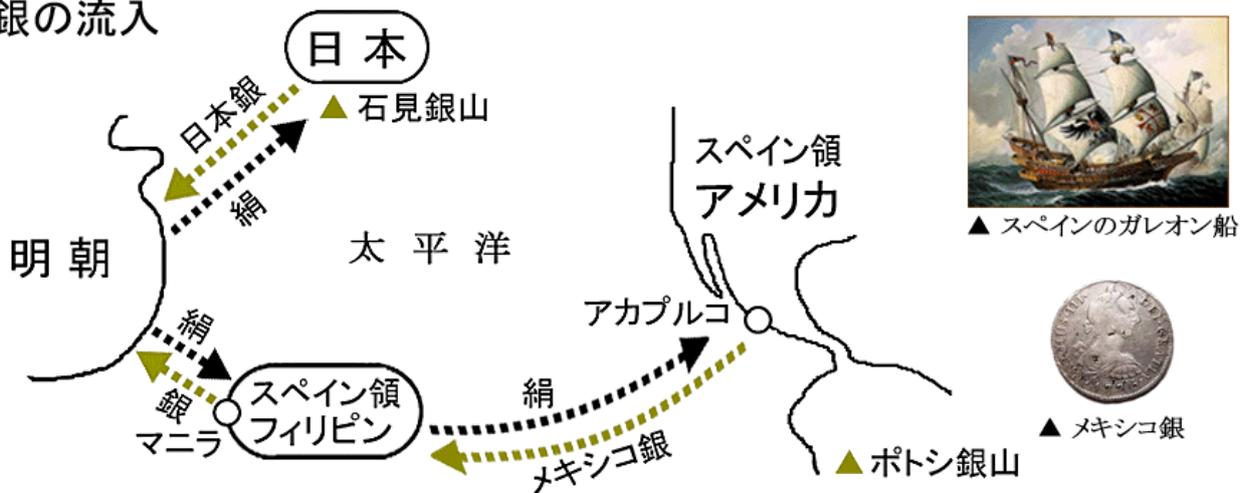
#### 📌 前期倭寇と後期倭寇

フビライの日本遠征(元寇)の直後に、北九州一帯の武装集団が高麗や元朝や明朝の沿岸を襲撃したのが前期倭寇で、日本人が主体だった。明代中期以降に海禁を犯して日本と密貿易をおこなったのが後期倭寇で、中国人が主体だった。取り締まりに失敗した明朝は、海禁を緩め、倭寇の首領に明の官位を与えて懐柔した。日本で政権を握った豊臣秀吉が、刀狩令、海賊禁止令を出して厳しく取り締まった結果、倭寇の活動は収まった。

やがて大航海時代が始まると、ヴァスコ=ダ=ガマのカリカット来航を機に**ポルトガル商人**がやってくる。彼らも朝貢する気はないので、倭寇に加わる。このような無国籍武装商人団の倭寇が勝手に貿易をおこない、明の海禁政策は破綻した。

スペインは、アメリカ大陸を征服して先住民を奴隷化し、南米ボリビアの**ポトシ銀山**を開発する。アメリカ大陸からアジアに向かうには、メキシコのアカプルコ港を出航して貿易風に乗れば、**フィリピン**に着く。**スペイン人が建設したフィリピンのマニラ港**には**メキシコ銀**を求めて**中国商人**が殺到し、チャイナ=タウンができる。このスペイン人による太平洋貿易を**アカプルコ貿易**とか、**ガレオン貿易**という。ガレオンはスペインの大型貨物船のことだ。

## 銀の流入



日本では、室町幕府が崩壊し、織田・武田・毛利などの戦国大名が勢力争いを繰り広げ、鉱山開発に力を入れた結果、金山・銀山がつぎつぎに開発された。島根県の**石見銀山**は、ポトシ銀山と並ぶ世界最大級の銀山だった。この日本銀を求めて、中国商人やポルトガル商人が出航した。日本の種子島へのポルトガル人来航と「鉄砲伝来」(1543)は偶然起こったわけではない。ポルトガル商人は、戦国時代の日本を武器市場として見ていたに違いない。

## 中国の米作地帯



「〇〇熟すれば天下足る」

**〇 江浙 (蘇湖)**

宋代にコメの産地 ← 占城稻の普及  
明代には商品作物 (桑・綿花) に転作

**〇 湖広**

明代にコメの産地  
(内陸なので貿易には不利)

宋代にコメの大産地となった沿海部の江浙地方では、絹や綿布など輸出品の生産が拡大し、コメから桑・綿花など商品作物への転作が進んだ。貿易に不向きな内陸の湖広 (湖北・湖南) では、逆にコメが増産され、「湖広熟すれば天下足る」といわれた。コメを作れない山間部では、ポルトガル人がもたらしたアメリカ原産のトウモロコシが普及し、人口の爆発的な増大をもたらした。

明朝も塩の専売をおこなった。万里の長城の軍団に物資を納入する**山西商人**は、政府から塩の専売権を得た。淮河流域で塩の生産を請け負う**新安商人**とともに、明・清を代表する遠隔地商人 (客商) として全国にネットワークを張りめぐらし、主要都市には**会館・公所**とよばれる在

外商館を建設した。広大な中国では地方によって言語や習慣がまったく違うので、同郷・同族のネットワークはどうしても必要になってくる。

### ◎明・清の税制がよくわかりません。

メキシコ銀・日本銀の流入は、明の税制を変えた。まず、税金というのは2種類ある。土地にかかる地稅と、人間にかかる人頭稅(丁稅)だ。イスラーム世界では、ハラージュが地稅でジズヤが人頭稅だ。隋・唐の**租庸調制**では、口分田に課稅する租と庸が地稅で、成人男子に勞役をさせる庸と雜徭が丁稅だ。唐末に始まる**兩稅法**は、資産に応じて銅錢で課稅したので地稅だ。勞役はそのまま残ったが、宋の王安石が、免役錢を払えば勞役を免除することにした(**募役法**)。この段階で、人頭稅も錢納になったわけだ。錢というのは銅錢のことだね。

**明は、地稅・丁稅をまとめて銀で徵收する一条鞭法**を実施した。一条鞭とは、一本化という意味だ。次の清朝は、地稅・丁稅を銀で徵收したので、**地丁銀**という。

### ◎それって、同じじゃないですか？

うん。この違いを説明するのはちょっと難しい。まず、税金ってできれば納めたくないよね。明は、軍事費が財政を圧迫して一条鞭法の税率が上がっていくから人民は苦しくなる。魚鱗図冊で土地は政府に把握されているから、地稅をごまかすのは難しい。でも、丁稅はごまかせるんだ。家族が増えれば丁稅も増えるから、子どもが生まれなかった、または死んでしまったことにする。人口調査のときに人民はウソの申告をして、丁稅をごまかしたんだ。こういう不正が横行し、まじめに払っている人がばかを見るという状況になってしまった。

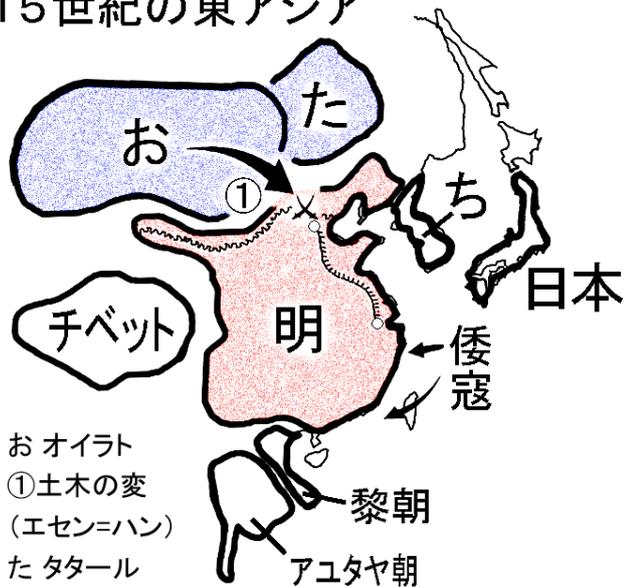
**清の康熙帝は1711年の戸籍で人頭稅を固定した**。この年、大人が5人だったら永久に5人分として計算するという意味だ。実際の人数とは関係なく、丁稅を定額にして地稅と合算した。これが**地丁銀**だ。**1711年以降に生まれた人間には人頭稅を免除される**から、事実上の減稅となった。

### ◎北虜南倭って何ですか？

明朝を苦しめたものは、倭寇と北方民族だ。あわせて**北虜南倭**という。モンゴルは明に敗れて長城以北へ撤収した(北元)のち、東西に分裂した。東の**タタール**は元朝の直系の子孫。西の**オイラト**は元朝の外戚だった部族だ。両者のいずれかがモンゴル高原を統一すると、明との貿易を要求する。貿易赤字に苦しむ明が貿易を制限すると、北京へ侵攻してくる。北京はフビライが建設した都だったね。

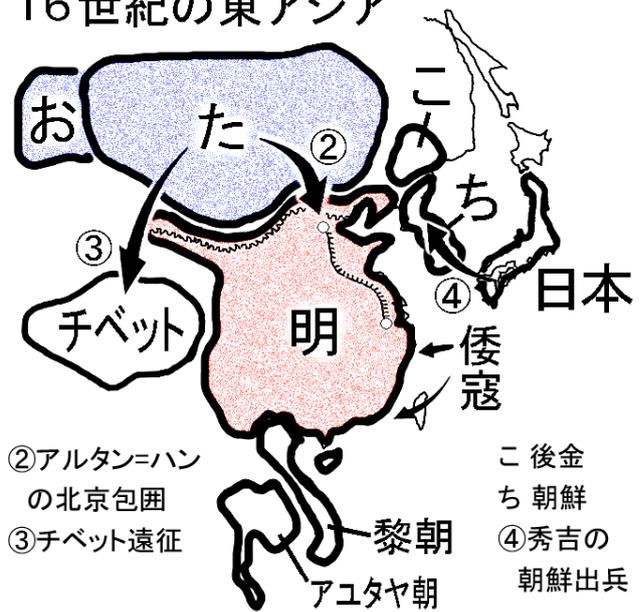
**オイラトの英雄エセン=ハンが侵攻し、明の正統帝を捕虜にしたのが土木の変**。エセンが暗殺されて正統帝は釈放されたが、明の面目は丸つぶれだ。**タタールのアルタン=ハン**は**北京包圍**を繰り返したほか、遠くチベットまで遠征してチベット仏教(黄帽派)の指導者を保護し、**ダライ=ラマ**の称号を贈った。モンゴル人は熱心なチベット仏教徒であり、モンゴルの軍力とチベット仏教の精神的權威が結びついたわけだ。防戦一方の明は、万里の長城の大修築を行った。莫大な軍事費と宮廷の浪費が明の財政を圧迫した。そのしわ寄せは、一条鞭法の増稅という形で人民の上へのしかかってくる。

## 15世紀の東アジア



お オイラト  
①土木の変  
(エセン=ハン)  
た タタール

## 16世紀の東アジア



②アルタン=ハン  
の北京包囲  
③チベット遠征

こ 後金  
ち 朝鮮  
④秀吉の  
朝鮮出兵

歴代王朝の中で最も無能な皇帝が多かったのが明朝だ。皇帝独裁でしかも無能では、国が傾く。とくに万曆帝は、明の衰退を決定づけた皇帝だった。幼少時には**内閣大学士の張居正**が補佐し、**一条鞭法の制定**、財政再建などで効果を上げたが、成人後は宦官に政治を任せ、北京近郊に巨大な陵墓を造らせ、日夜、宴会に興じた。

日本を統一した**豊臣秀吉**は、明の征服を企てて朝鮮に出兵し、女真族(満州人)を統一した**ヌルハチ**も長城に迫った。中華思想を振りかざして自由な貿易を制限した明朝は、異民族の相次ぐ侵攻で財政破綻し、崩壊していく。

## ② 清

いよいよ最後の清朝だ。**満州族**(女真族)が建てた清は、モンゴル人が建てた元と同じ征服王朝だ。でも、元の中国(江南)支配が90年しか続かなかったのに、清の中国支配は270年に及んだ。そのぶん、「うまくやった」ことになるね。

◎元とはどこが違ったんですか？

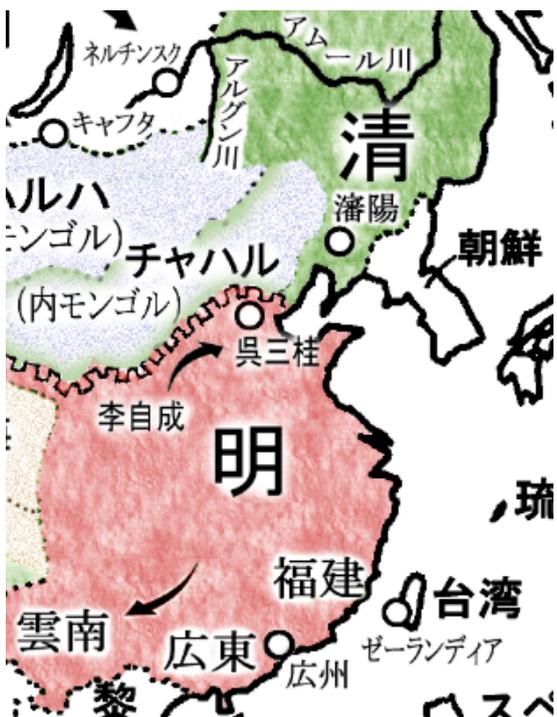
**女真族の建州部を統一したヌルハチ**は、金朝の復活を目指して国名を**後金**と称し、明軍に勝利した。彼は、明の重税を逃れてきた漢人や服属してきたモンゴル人を対等に扱い、3民族の連合政権を樹立した。たとえば**八旗**という**軍事組織**を定めたが、満州八旗・蒙古八旗・漢人八旗という3部隊編成にした。モンゴル人・色目人を優遇して漢人・南人を差別した元朝とはここが違う。

### 📌 満州とは？

ヌルハチは、民族名を「女真」から「満州(マンジュ)」に改めた。彼らが信仰するチベット仏教の東方の守護神「**文殊菩薩**」に由来するという説が有力だ。やがて彼らの現住地をも満州と呼ぶようになり、英語ではマンチュリア Manchuria という。1930年代に日本軍占領下で「満州国」が建国された。第二次世界大戦後、中華人民共和国に併合されると、「満州」という地名は使用を禁じられ、「中国東北部」とか「東三省」と呼ぶようになった。満州人はいまでも少数民族として存在するが、住民の大多数は漢人になっている。

モンゴル高原ではタタールが分裂、外モンゴルのハルハ、内モンゴルのチャハルが争っていた。2代目の**ホンタイジ**は、チャハルの王子からフビライが使っていた**玉璽**(皇帝の印)を献上され、**北方民族全体の君主であるハンとして即位し、国名を「後金」から「清」へ改めた**。フビライの都・北京の攻略を目指すのが、万里の長城に阻まれた。

3代目の**順治帝**(フリン)は6歳で即位したが、翌年、明朝の内紛に乗じてほとんど抵抗を受けることなく、中国を征服した。



◎えっ、明が抵抗しなかった???

そう、明は自滅したんだ。明末にはまた宦官政治が始まり、人民は重税と干ばつに苦しみ、**李自成**が率いる**農民反乱**が起こった。明朝最後の**崇禎帝**はまじめな人物で、いろいろまみれの宦官を取りしまりまった。皇帝を恨んだ宦官は李自成軍のために北京城の城門を内側から開き、北京は陥落、皇帝は自害、明は滅んだ(1644)。

万里の長城が海に突き出ている**山海関**という要塞を守り清軍をくいとめていたのが明の將軍・**呉三桂**だ。全面に李自成軍、長城の北に清軍という2つの敵に挟まれた呉三桂は考えた。(清軍を利用して、反逆者の李自成一倒そう!)  
「門を開け！」

山海関を突破した清の大軍が李自成軍を粉砕し、北京を占領した。清は、「李自成反乱軍を討つ」という大義名分のもとに、中国の支配者になったわけだ。これを「清の入関」という。呉三桂は清朝からほうびとして**雲南の藩王**という諸侯の地位を与えられた。

呉三桂ら清に服属した漢人には満州族の習俗である辮髪(弁髪)を義務付け、李自成ら「長髪」の漢人は敵と見なした。これが**辮髪令**だ。「頭を留める者は髪を留めず、髪を留める者は頭を留めず」

辮髪にしない者は反逆罪で首をはねるぞという意味だ。逆にいえば、頭を剃れば清朝に保護されるので、ほとんどの漢人は従った。(逆に、髪を伸ばせば清朝への反逆を意味する。のち清朝に反逆した**呉三桂、洪秀全、孫文**は、いずれも弁髪をやめ、髪を伸ばしている)



鄭成功

#### ◎誰も抵抗しなかったんですか？

もちろん、抵抗する者もいた。呉三桂ら三藩の乱と鄭氏台湾だ。明末に福建の倭寇の首領だった鄭芝竜という人物がいた。日本の九州の平戸にも屋敷があり、日本人妻との間に生まれたのが**鄭成功**だ。父の鄭芝竜は明朝から地方長官の地位を与えられて明に忠誠を誓っていた。だから清には抵抗し、清軍に殺され、母は自害した。「反清復明」を掲げる鄭成功は、船団を率いて**台湾に独立国家(鄭氏台湾 1662-83)を建設**し、台湾南部の**ゼーランドディア城をオランダから奪った**。鄭氏を支えたのは日本との貿易だった。鄭成功は日本に援軍を求めたが、鎖国に転じた徳川幕府に拒否された。鄭成功は熱病のマラリアで急死したが、息子の鄭経が抵抗を続けた。大阪では鄭成功を主人公にした近松門左衛門の人形芝居『国姓爺合戦』が大ヒットした。

#### 📖 台湾の歴史

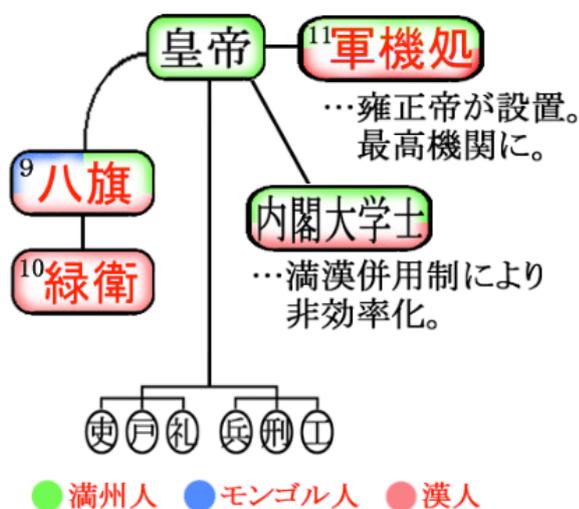
台湾の先住民は高山族。フィリピン人やマレー人に近い南アジア系の狩猟民だ。中華帝国は台湾を支配しなかった。大航海時代、スペインのフィリピン支配に対抗してオランダ人が台湾南部に入植し、ゼーランドディア城を建設した。鄭成功がオランダ人を追放して鄭氏台湾を建て、清の康熙帝が鄭氏を破って清の直轄領とした。日清戦争後の下関条約で日本領となった。日本の敗戦後は、中華民国の支配下に入り、大陸の共産党政権(中華人民共和国)と対立を続けた。鄭成功は、いまでも台湾独立の英雄だ。

第4代**康熙帝**が8歳で即位すると、呉三桂ら漢人諸侯たちが不穏な動きを見せた。雲南・広東、福建の三藩は事実上の独立政権だった。康熙帝が三藩の廃止を決断すると、雲南王呉三桂は、広東王・福建王とともに挙兵した。**三藩の乱(1673-81)**だ。鄭成功の息子・鄭経とも連携して清朝に攻め込み、一時は長江南岸まで制圧した。北京を捨てて満州へ脱出すべきという声もあったが、康熙帝は徹底抗戦を命じた。三藩を平定した康熙帝は、**浙江・福建沿岸の住民を内陸に強制移転させる遷界令**によって台湾との交易を禁じ、鄭氏を降伏させた。こうして清朝は、全中国(明の領土)と台湾を支配下においた。

#### ◎三藩や鄭氏は、どうして負けちゃったんですか？

呉三桂は人気がなかった。清の入関に協力して諸侯になりながら、いまさら「反清復明」なんて言っても誰も信じない。

## 清…満漢併用制



▲漢字と満州文字

州語を話す。朝鮮語や日本語に近い言葉だ。順治帝以後の皇帝は満州語・漢語のバイリンガルだが、母国語は満州語だ。漢人官僚は満州語を理解できない。公文書は満州語・漢語の2通ずつ作製する。翻訳のため内閣の仕事は遅くなる。5代**雍正帝**はジュンガル遠征(後述)のとき、内閣から3人を引き抜いて**軍機処**を設置し、軍事関係の決定機関とした。多い時でも6人しかいない軍機処は**内閣に代わる最高決定機関**となった。

康熙帝は漢字辞書の『**康熙字典**』、百科事典の『**古今圖書集成**』を、乾隆帝はあらゆる書物を4分野(儒学經典・歴史・諸子百家・文学)に分類した『**四庫全書**』を編集させるなど、漢人文化に理解を示した。一方で、清朝を批判する書物に対しては徹底的に取り締まった。これを**文字の獄**という。こうして、アメと鞭を使って漢人統治には成功したが、今度は北と西に強敵が出現した。



清朝は、八旗の下に漢人だけの治安部隊である**綠營**をおき、明の兵士を再就職させた。中央官庁は明の官僚機構をそのまま受け継ぎ、科挙も続けた。**内閣大学士**や**六部の長官**は**満州人と漢人と2人ずつおいた**。**満漢併用制**という。○色目人を優遇して漢人・南人をいじめた元朝と全然違いますね。

それに、漢人の多くは清朝の善政を歓迎し、腐敗にまみれた明の復活を望まなかった。康熙帝は質素な生活を続け、一条鞭法を地丁銀に改めて事実上の減税を行った。清朝は最も優れた息子に皇位継承させるので、無能な皇帝が出たり、宦官が権力を握ることもなかった。辮髪さえ気にしなければ、明よりはるかに優れた国だった。

問題もあった。言葉の問題だ。満州人は、

◎それは何ですか？

まずは北のロシア。康熙帝が三藩と台湾の平定に手こずっている間に、シベリア征服を続ける**ロシア帝国が満州に侵入**してきた。三藩を征服した康熙帝は大軍を北方に向け、ロシア人を満州から排除し、**ネルチンスク条約(1689)**で国境を画定した。**外興安嶺とアルグン川**という線は、現在の中露国境よりずっと北にある。

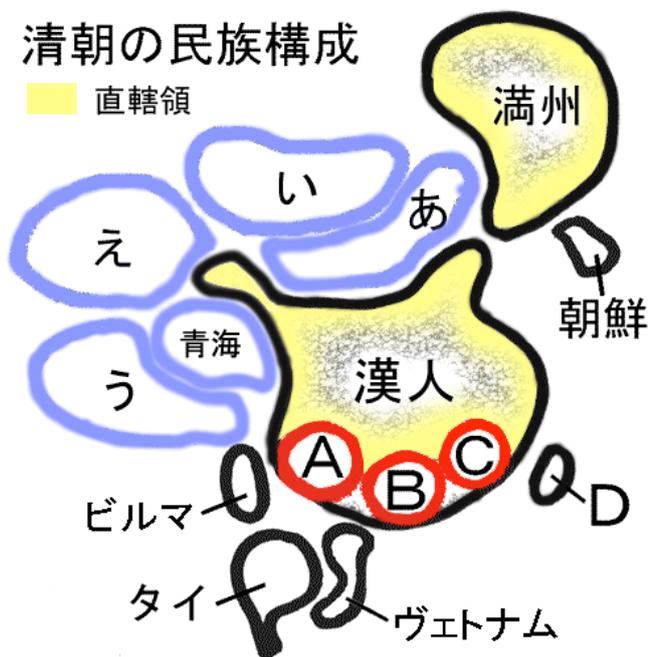
西方では、オイラトの子孫の**ジュンガル**が、**ガルダン=ハン**に率いられて**東トルキスタン(タリム盆地とジュンガル盆地)**に遊牧帝国を築き、ウイグル人を支配していた。ま

たモンゴル高原やチベットに勢力を拡大して清朝を脅かした。康熙帝はジュンガル遠征をおこなってガルダンを破り、外モンゴルのハルハを保護下に置いた。

5代 **雍正帝** は、**キャフタ条約(1727)** でロシアと外モンゴルとの国境を画定。チベットの内紛に乗じて**ダライ=ラマ政権**を保護下に置いた(満州族は、もともと熱心なチベット仏教徒)。ジュンガル遠征に際して軍機処を置いたのがこの皇帝だね。

6代 **乾隆帝** はジュンガルを最終的に滅ぼして東トルキスタンを支配下に置き、**新疆** (新しい領土)と呼んだ。**チャハル・ハルハ・チベット・新疆**は**新疆**を**藩部**と呼び、モンゴル人のハン、チベットのダライ=ラマ政権、ウイグル人の族長らに自治権を認めた。朝貢や紛争仲裁などは北京の**理藩院**が管理するが、あとは基本的に自由だ。**三藩(漢人諸侯)**と、**藩部(異民族自治区)**との違いに注意しよう。

## 清朝の民族構成



Ⓐ <sup>1</sup> **三藩** …吳三桂ら漢人武將を諸侯に。

A<sup>2</sup> **雲南** B<sup>3</sup> **広東** C<sup>4</sup> **福建**

⇒康熙帝が併合。

D<sup>5</sup> **台湾** …鄭成功が独立。のち康熙帝が併合。

あ<sup>6</sup> **藩部** …自治領。理藩院が監督。

あ<sup>7</sup> **チャハル** (内モンゴル)

い<sup>8</sup> **ハルハ** (外モンゴル)

う<sup>9</sup> **チベット** (ダライ=ラマ政権)

え<sup>10</sup> **ジュンガル** (新疆)

### 📌 藩部と民族問題

辛亥革命で清朝が崩壊すると、外モンゴルはソ連(ロシア)の支援で独立した。しかし、チベット・新疆ウイグル・内モンゴルはいまも中国の支配下にある。「清朝の藩部は全部中国領だ」というのが、現在の中国政府の主張だ。これに対し、同じ藩部だった外モンゴルは独立できて、チベット・ウイグルはダメ、では理屈が通らない、というのが、チベットやウイグルの独立派の主張だ。

清朝は、特定の宗教を国教にしたり、弾圧したりすることもなかった。満州人やモンゴル人はチベット仏教、ウイグル人はイスラーム教、漢人は道教や仏教、儒教をそれぞれ崇拝し、キリスト教の布教も認めた。キリスト教については、典礼問題で布教は制限されたけどね…

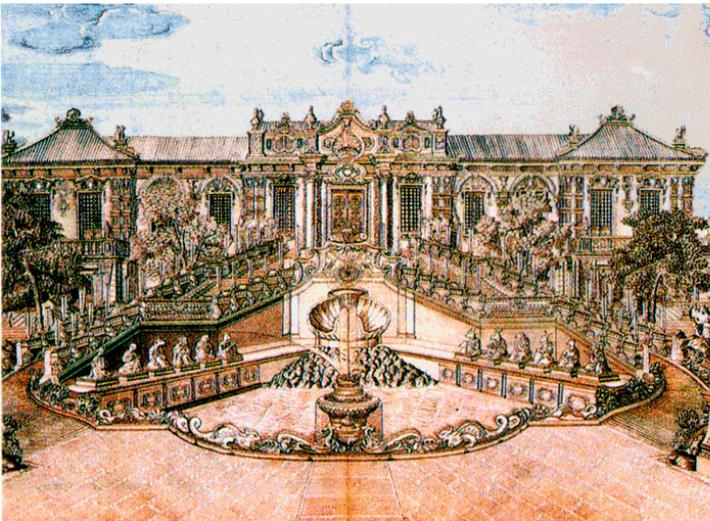
◎ 典礼問題について教えてください。

**典礼問題** は、キリスト教の布教方法をめぐるゴタゴタだ。中国にキリスト教が伝わったのは唐代のネストリウス派が最初。元末にフランチェスコ会のモンテ=コルヴィノがカトリックを伝えたが、布教は難航した。問題は儒学の典礼——祖先崇拝と孔子崇拝だった。

儒学では、「死者に仕えること、生者に仕えるがごとし」といって、両親・祖父母・曾祖父母の14人に対し、生きていくかのごとく仕え、食事を備える。このような祖先崇拜は、一神教のキリスト教とは矛盾する。宣教師は典礼を認めず、儒学者はキリスト教を「礼儀をわきまぬ夷狄(野蛮人)の教え」と非難した。

明末にやってきた**マテオ=リッチらイエズス会**は布教の際に典礼を黙認したため、信者は急速に増えていった。これに反発した他派の宣教師が、「イエズス会は中国の邪教を認めている！」とローマ教皇に告訴した結果、教皇がイエズス会の布教を禁止した。今度は逆に、イエズス会が康熙帝に訴え、**康熙帝はイエズス会以外の布教を禁止した(1704)**。満州人でチベット仏教徒の康熙帝にとっては、典礼がキリスト教に反するかどうかはどうでもいいこと。それより、清朝が漢人の支持を得るにはどちらが有利か考えた。**典礼は漢人の習慣だから、これを尊重するほうを選んだ**わけだ。

イエズス会は、康熙帝死後の皇位継承争いに介入したため、次の**雍正帝はイエズス会の布教を禁止した(1724)**が、イエズス会宣教師の滞在は許した。彼らが天文学・軍事・建築・美術などヨーロッパの最新の科学技術をもたらしたからだ。雍正帝は、イエズス会の**カスティリオーネ**に設計させて北京近郊に**バロック様式の円明園**を作らせたほどの「西洋かぶれ」だった。この辺が、清朝のおもしろいところだ。円明園は、のちにアロー戦争で英仏連合軍に破壊されてしまった。いまではその残骸が保存されている。



▲ 洋装の雍正帝

◀ 圓明園

乾隆帝は、北方民族のハンというより、中華帝国の皇帝のように振舞った。異民族には朝貢貿易を要求し、茶を求めて来航する**イギリス東インド会社**の商人にも広州一港に貿易を制限して臣下の礼を強要した。これが**アヘン戦争**へとつながり、植民地へと転落していく。

(120731 更新)